

## **WN-A54/BBRファームウェア1.1.0での変更点、追加機能**

ファームウェアバージョンを1.1.0へバージョンアップすることにより、以下の機能が使用可能となります。

### 変更点一覧

- 1．NETWORK1・NETWORK2 間のスループットの向上（次ページ）
- 2．PPPoEのパスワードの入力最大値を31文字に拡張（次ページ）
- 3．無線チャンネル自動選択モードの追加（次ページ）
- 4．設定の保存と復元機能の追加（3ページ）
- 5．VPN パススルー対応（ルータモードのみ）（6ページ）
- 6．UPnP 対応（ルータモードのみ）（7ページ）
- 7．仮想サーバー設定のポート数の拡張（ルータモードのみ）（11ページ）

## 1 . NETWORK1 · NETWORK2 間のスループットの向上

---

NETWORK1 · NETWORK2 間のスループットが向上しました。以前のファームウェアに比べ、ルータモードでおよそ 1.4倍、ブリッジモードでおよそ 1.7倍、スループットが向上しました。

## 2 . PPPoE のパスワードの入力最大値を 31文字に拡張

---

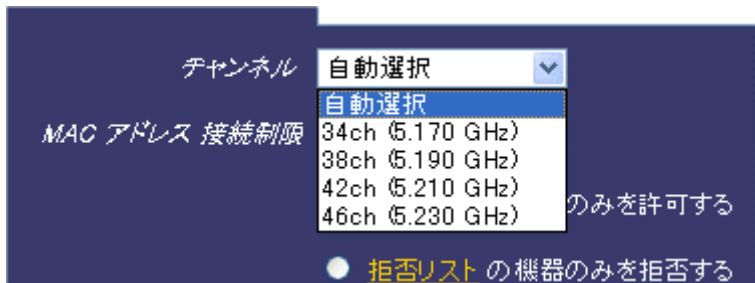
## 3 . 無線チャンネル自動選択モードの追加

---

アクセスポイントの電源を入れたときに、周囲の電波状況（混み具合）から適切なチャンネルを自動的に検索し、設定できるモードを追加しました。

[ 簡単設定 ] - [ 無線LANの設定 ] - [ チャンネル ] - [ 自動選択 / 34ch(5.170 GHz) / 38ch(5.190 GHz) / 42ch(5.210 GHz) / 46ch(5.230 GHz) ]

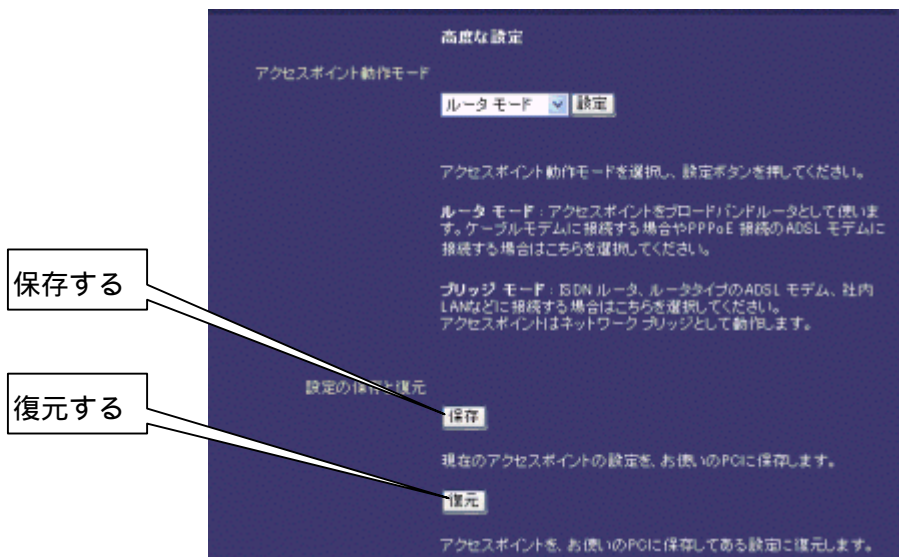
[ 高度な設定 ] - [ 無線LANの設定 ] - [ チャンネル ] - [ 自動選択 / 34ch(5.170 GHz) / 38ch(5.190 GHz) / 42ch(5.210 GHz) / 46ch(5.230 GHz) ]



#### 4. 設定の保存と復元機能の追加

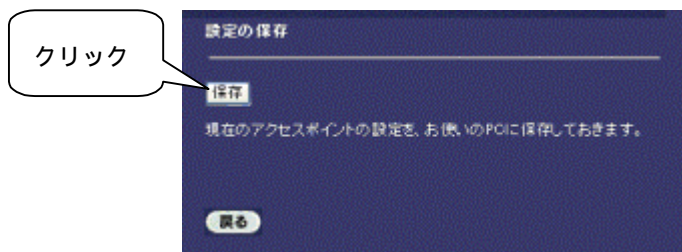
[ 高度な設定 ] - [ 設定の保存と復元 ] - [ 保存 / 復元 ]

- ・設定を保存する場合は、[保存]ボタンをクリックします。(次ページ参照)
- ・設定を復元する場合は、[復元]ボタンをクリックします。(5ページ参照)

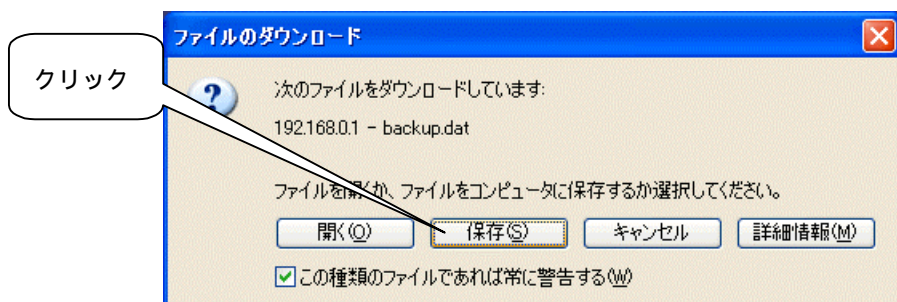


## [保存]する場合

下記の画面で[保存]ボタンをクリックします。

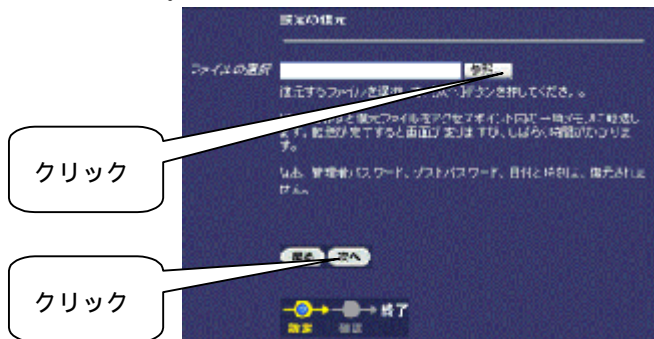


下記の画面で[保存]ボタンをクリックし、画面の指示にしたがいます。

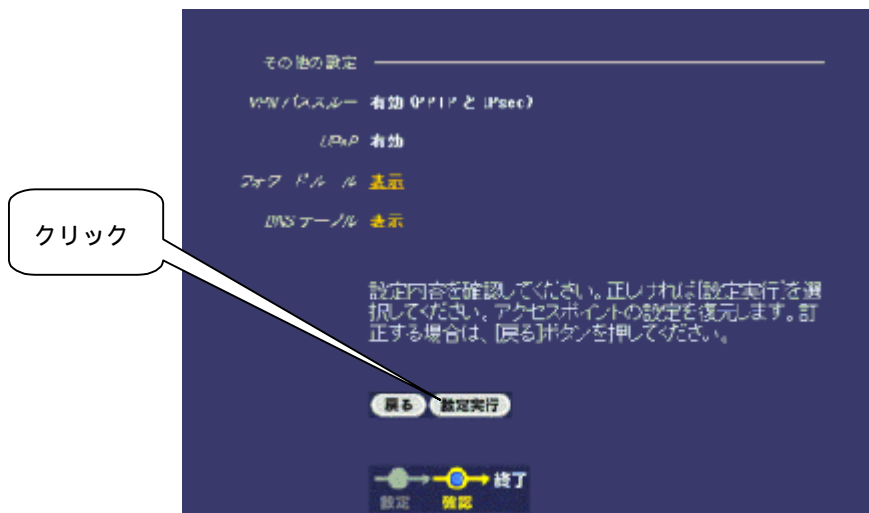


## [復元]する場合

下記の画面で[参照]ボタンをクリックし、ファイルを指定後、[次へ]ボタンをクリックします。



確認画面が表示されるので、画面下方の[設定実行]をクリックします。

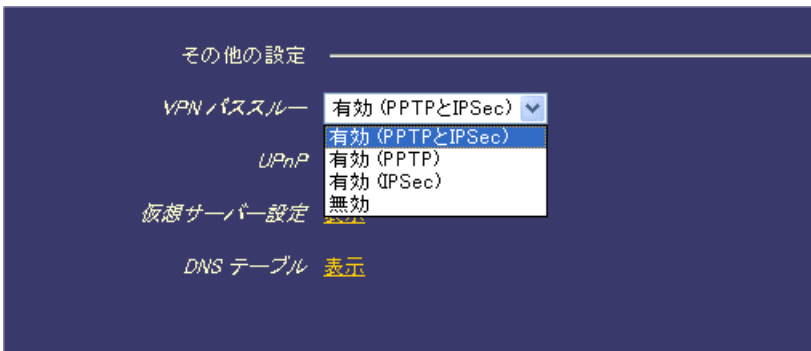


## 5 . VPN パススルー対応 ( ルータモードのみ )

ルータモードの場合でも、LAN 側 ( NETWORK2 側または、WIRELESS 側 ) から WAN 側 ( NETWORK1 側 ) へ、PPTP または IPSec を利用して VPN 接続できるようになります。

ルータモードで WAN 側 ( NETWORK1 側 ) から LAN 側 ( NETWORK2 側または、WIRELESS 側 ) の特定のコンピュータへ、PPTP を利用して VPN 接続できるようになります。

[ 高度な設定 ] - [ その他の設定 ] - [ VPNパススルー ] - [ 有効(PPTPとIPSec) / 有効(PPTP) / 有効(IPSec) / 無効 ]



### 注意 !

- ・ VPN 接続を行っているコンピュータから、同時にインターネットへの接続はできません。
- ・ 1つの VPN サーバには、LAN側から同時に 1つのクライアントしか接続できません。
- ・ LAN 側 ( NETWORK2 側または、WIRELESS 側 ) で、1台のコンピュータが VPN 接続を行っている場合でも、LAN 側の他のコンピュータはインターネットへ接続できます。

## 6 . UPnP 対応 ( ルータモードのみ )

Universal Plug and Play ( UPnP ) Architecture, Version 1.0 で規定されている IGD ( Internet Gateway Device ) を実装しました。 <sup>1</sup>

これにより、ルータモード時も、Microsoft 社の Windows XP に標準でインストールされている「Windows Messenger <sup>2</sup>」の「カメラ」、「音声チャット」 <sup>3</sup>等の機能や、UPnP を利用したアプリケーションソフトウェアをご利用できるようになります。

さらに、Windows XP からアクセスポイントの設定ページにアクセスできます。

### 【Windows Messenger の利用できる主な機能】

カメラ	
音声チャット	
ファイルまたは写真の送信	x <sup>4</sup>
リモートアシスタンス	
アプリケーションの共有	
ホワイトボード	

さらに、Windows XP から、アクセスポイントの設定ページにアクセスできます。 <sup>5</sup>

- 1 同時に 5 台まで UPnP の機能を利用したアプリケーションソフトウェアを使用できるようになります。
- 2 「Windows Messenger Version 4.6」以降をご利用ください。
- 3 「カメラ」、「音声チャット」を利用する場合は、別途、カメラ、マイクが必要になります。
- 4 「Windows Messenger」の、「ファイルまたは写真の送信」機能は、ご利用になれません。( 接続環境によっては、受信のみできる場合があります。 )
- 5 Windows XP から、アクセスポイントの設定ページを開くには、Windows コンポーネントの中の「ユニバーサル プラグ アンド プレイ」をインストールしておく必要があります。



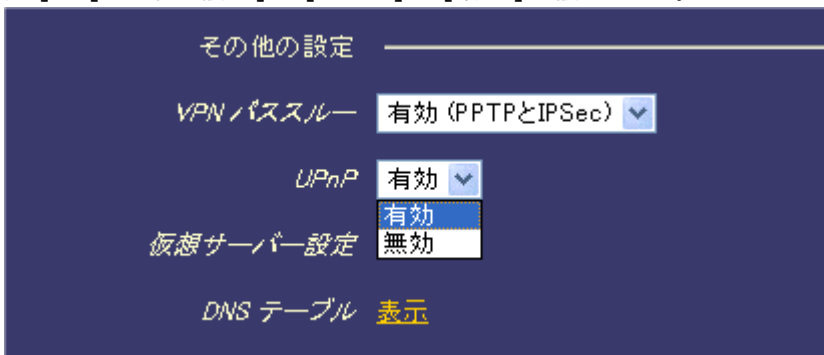
### 注意!

以下のような環境の場合、UPnP機能を使用してもWindows Messengerの一部機能しかご利用できませんのでご注意ください。

- ・プロバイダから、プライベートIPアドレスを割り当てられている場合
- ・ルータ機能内蔵タイプのADSLモデムに接続して使用する場合
- ・Windows Messengerの使用方法については、マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

## 《 1 》 WN-A54/BBRでUPnPを有効にする

[ 高度な設定 ] - [ その他の設定 ] - [ UPnP ] - [ 有効 ] に設定します。



## 《 2 》 WindowsでUPnPを有効にする

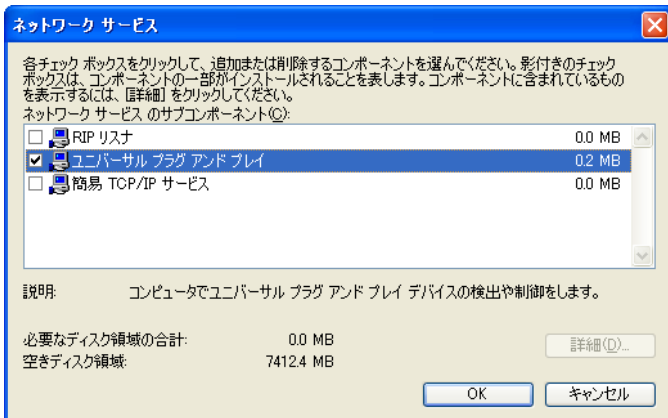
### Windows XPの場合

[ スタート ] [ コントロールパネル ] をクリックします。

[ プログラムの追加と削除 ] を開き、[ Windowsコンポーネントの追加と削除 ] を開きます。

[ ネットワークサービス ] を選び、[ 詳細 ] ボタンをクリックします。

[ ユニバーサルプラグアンドプレイ ] にチェックを入れて [ OK ] ボタンをクリックします。



「Windowsコンポーネントウィザード」に戻りますので [ 次へ ] ボタンをクリックします。

ウィザードが完了したら [ 完了 ] をクリックします。



## Windows Meの場合

マイクロソフト株式会社の指示にしたがい、DirectX8.1以降をインストールしてください。

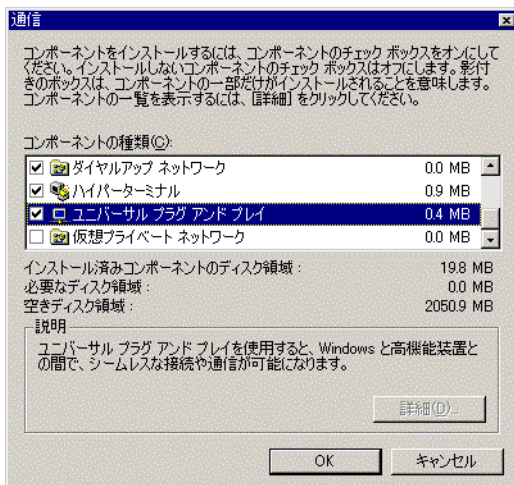
DirectXについてはマイクロソフト株式会社にお問い合わせ下さい。

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックします。

[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブを開きます。

[通信]を選び、[詳細]ボタンをクリックします。

[ユニバーサルプラグアンドプレイ]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。

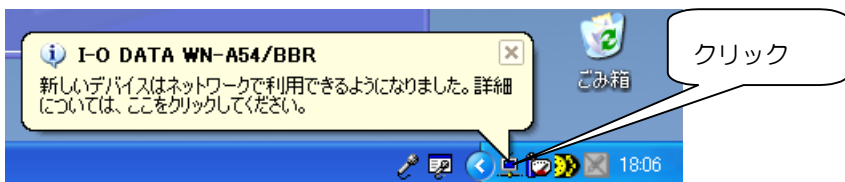


[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]に戻りますので[OK]をクリックします。

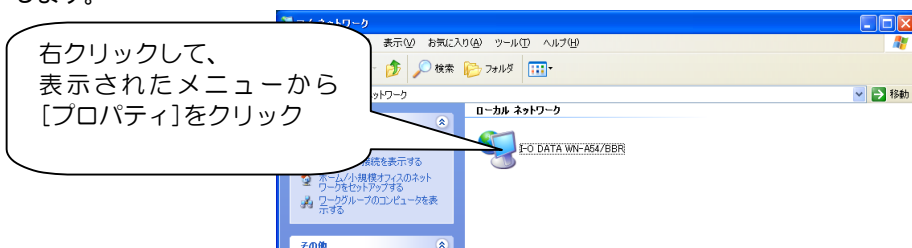
### 《3》UPnPを確認にする

確認方法はWindows XP、Windows Me共通です。（説明はWindows XPの例です。）

UPnP機能が有効になると、ネットワーク上のWN-A54/BBRが検出され以下の画面が表示されますのでクリックします。



「I-O DATA WN-A54/BBR」アイコン上で右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



下の画面が表示されていたら、正常にWN-A54/BBRが認識されています。


正常に認識されていない場合は、設定をご確認ください。



## 7. 仮想サーバー設定のポート数の拡張（ルータモードのみ）

[ 高度な設定 ] - [ 仮想サーバー設定 ] - [ 転送元ポート ]

1 ~ 39999      1 ~ 49151に拡張しました。

  
**仮想サーバー設定**

11番目は、PPTP VPN のためのフォワードルールです。

転送元ポート及び転送先ポートは1から49151の範囲で指定してください。

**例)**

全てのポート (1から49151) を転送先IPアドレス (192.168.11.15) に転送する場合  
する    TCP/UDP   1 - 49151    192.168.11.15   :   1    する

指定したひとつのポート (21) だけ転送先IPアドレス (192.168.11.15) に転送する場合  
する    TCP/UDP   21 - [入力しない]    192.168.11.15   :   21    する

	転送	プロトコル	転送元ポート	転送先 IP アドレス/ポート	ログ出力
1	無効	TCP/UDP	-	192.168.0. :	無効
2	無効	TCP/UDP	-	192.168.0. :	無効
3	無効	TCP/UDP	-	192.168.0. :	無効
4	無効	TCP/UDP	-	192.168.0. :	無効